



令和6年5月

「授業づくり まずここから」

令和6年度がスタートし1か月が過ぎました。日々の授業を充実させることが信頼関係を深める最も重要な手立てだと考えます。昨年度各校の若手の先生方と話し合った授業改善のポイントを紹介します。授業づくりを再考されるときヒントになれば幸いです。本年度も先生方の思いに寄り添い、支援していきたいと考えています。

1 実態を把握することから始めましょう

- ・**プレテスト**で、既習事項の定着度を確認しましょう。
- ・休み時間に遊んだり話を聞いたりすることで**信頼関係**を作りましょう。子ども達との関係が深まれば指示が通りやすくなります。

(「1週間で全員と遊ぶ」という目標を立て、1年間取り組まれた先生がおられました。)



2 教材の分析をしましょう

- ・**目標の分析**はもちろん、子どもたちがどんな姿になればいいのか具体的な**評価規準**を設定しその達成を目指しましょう。何で評価するかも明らかにしておきましょう。
- ・系統性を把握し、既習事項を想起させましょう。
- ・**単元全体**を通してどんな力をつけるか計画を立てましょう。

例 詩を読む「夕日がせなかをおしてくる」(4年国語)

・単元の目標

◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。

◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。

◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。

・本時の目標 詩を読んで思ったことや感じたことを発表する。

・めあて 夕日がせなかをおしてくるを読んで、思ったことや感じたことを発表しよう。

・評価規準 A:一人一人の感じ方の違いに気づき、自分の感想を深めている。

B:詩を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもっている。

(音読の工夫を書きこんだワークシートで評価する)

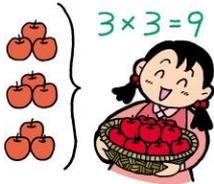
3 授業の展開は柔軟に考えましょう

- ・「めあて→個人思考→対話→交流→まとめ→振り返り」など授業のパターンを身に付けましょう。しかし、子どもたちの状況によって柔軟に対応しましょう。
- ・子どもたちの反応を予想し、できれば複数の展開を用意しましょう。

- ・数人が発表しただけで教室の子どもたちが理解したとは考えないように気を付けましょう。
- ・「めあて」: 目標を子どもたちに分かりやすい表現にしたもの 具体的に
- ・「振り返り」: めあてがどの程度達成できたかを中心に
- ・「板書計画」: 授業の流れが視覚的に理解できるもの 子どもたちの姿が見えるもの
- ・「発問計画」: 中心になる発問と 反応が不十分な時の補助発問を用意する。
抑揚をつける テンポよく 一問一答式にならない

4 個人差に対応するために

- ・**机間巡視**で全員の学習状況をつかみましょう。
- ・**問題の難易度や量**は子どもたちに応じたものを与えましょう。全員がいつも同じ問題数に取り組む必要はないのでは。
- ・「**つぶやき**」を拾うことで本音を理解しましょう。重要だと感じたものは、教室で共有し、授業に反映させましょう。挙手しなくても大事なことを発言していますよ。
- ・言葉だけでは理解しにくいので、できるだけ**具体物**を用意しましょう。
(分かりやすい順: 実物 > 写真 > 絵・図 > 言葉)
- ・例題はできるだけ**身近な**ものを取り上げましょう。教科書に書いてある一般的なものよりも、
 $3 \times 3 = 9$ 身近な人の名前、地域の建物などを使うと、問題を身近に感じることができます。
 - ・低学年では、体を動かす活動を増やしましょう。**体験して**実感すれば気が付くことがあります。集中力が途切れない効果もあります。



5 主体的に学ぶために

- ・教師は話しすぎない。子どもたちの活動時間を確保する。
- ・振り返りで自分の学びを自覚させ、次の学びにつなぐ。
 振り返りの視点 : めあてが達成できたか できなかったか
 学び方で気付いたこと 友達から学んだこと
 これからやりたいと思ったこと



6 教師の姿勢

「**笑顔**」4月に初めて教壇に立った先生がニコニコしながら授業されていました。最後の練習問題まで終始笑顔でした。先生の笑顔が子どもたちに伝わり、安心して課題に取り組みました。

「**ほめる**」午後の授業中、集中力が途切れ、だらけそうになった瞬間、「さすがやなあ。5時間目でもよい姿勢で頑張ってるなあ！」と昨年度の担任が一言。子どもたちは一瞬で背筋を伸ばし、授業に集中しました。魔法をかけられたみたいでした。

「**会話**」「意味のない会話が距離を縮める」と言われます(俵原正仁氏)。指導的な会話では距離は縮まりません。自分の好きな人や物について話を聞いてくれたら誰でも嬉しくなりますね。同じ時間、同じ空間をプラスの空気で満たすことができれば距離が縮まるのではないでしょう。まずは10秒から。